

事業名	NGO・NPO 国際シンポジウム ひょうごから洞爺湖へ 持続可能な未来を目指して - 地球市民社会からのメッセージ -
日時	平成 20 年 5 月 23 日 (金) 10:00 ~ 18:00
場所	神戸国際会議場 301 会議室

【開催趣旨】

G8 環境大臣会合で議題となる気候変動、生物多様性、3R は、地球規模の環境問題であり、G8 先進国に住む、わたしたち自身が引き起こしている問題です。このシンポジウムでは、政府や産業界とは違う立場からこの問題の解決に向けて取り組む NGO/NPO が、国内外から集い、大臣たちへの提言に向けて議論します。

プログラム

10:00	開会 挨拶 小島敏郎 環境省地球環境審議官
10:05	キーノートスピーチ
10:05	鮎川ゆりか(2008年G8サミットNGOフォーラム副代表)「G8環境大臣会合に何を期待するか」
10:20	ユルゲン・マイヤー(環境と開発に関するドイツNGOフォーラム代表)「経済のグローバル化と環境問題」
10:35	挨拶 井戸敏三 兵庫県知事
10:45	パネルセッション1 気候変動 コーディネーター：浅岡美恵 (気候ネットワーク) スピーカー：・野口健 (アルピニスト) ・ビル・ヘア (ポツダム研究所) ・ダイアナ・マックファジエン (WWF フィジィ) ・小林悦夫 ((財)ひょうご環境創造協会)
13:30	パネルセッション2 生物多様性 コーディネーター：倉澤七生 (川&グリラ・アクション・ネットワーク事務局) スピーカー：・カルロス・マニュエル・ロドリゲス (コンサベーション・インターナショナル) ・サスキア・オジンガ (FERN) ・上田尚志 (NPO法人コウノトリ市民研究所)
15:10	パネルセッション3 3Rイニシアティブ コーディネーター：安間武 (化学物質問題市民研究会) スピーカー：・リチャード・グティエレス(バーゼル・アクション・ネットワーク・アジア太平洋地域) ・ジャヤクマール・チェラトン (サナル) ・廣瀬稔也 (東アジア環境情報発信所)

16 : 50	プレナリーセッション 全体とりまとめ コーディネーター：早川光俊 (地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)) ・環境 NGO 兵庫宣言
18 : 00	閉会

参加人数 291 名

【環境NGO兵庫宣言】

今年の7月の北海道洞爺湖サミットに向けて、5月24日から26日にかけて開催される「G8 環境大臣会合」では、G8 各国やオーストラリア、中国、インドなど総勢 19 ヶ国の環境担当大臣が一堂に会し、地球規模の視野から、気候変動、生物多様性、3R について議論されることとなっている。

これに先立って開催された「NGO・NPO 国際シンポジウム：ひょうごから洞爺湖へ 持続可能な未来を目指して 地球市民社会からのメッセージ」では、開発途上国を含めた国内外の環境 NGO・NPO、そして市民が集まり、各国政府の環境への取り組みに対して、国益を超えたテーマで議論を行った。

私たちは、この議論の成果として、私たち先進国に住む市民自身が率先して行動するとともに、G8 各国の首脳たちに、次の項目にかかる課題の解決に向けた具体的な行動を起こすよう強く求めるものである。

(気候変動)

気候変動は深刻であり、世界の指導者たちが緊急に解決に挑むべき国際安全保障の問題である。異常気象や生物多様性の破壊などの被害は、脆弱な開発途上国により大きく起こり、貧困を一層深刻化させ、人権侵害を加速し、ひいては紛争の要因ともなっている。

気候変動の解決に向けて、今後 10～15 年で世界の排出のピークを迎え、2050 年には 1990 年レベルに比べて半減以上の削減を行い、先進国全体では 2020 年までに 90 年比で 25～40% 削減していくことが必要との認識にたち、温室効果ガス排出の責任の大きい G8 各国が、率先して実効ある行動を起こすこと。

(生物多様性)

2007 年 G8 で「生物多様性」が重要な課題に上げられ、生命、経済の基盤であることが改めて認識された。人と自然の関係を地球レベルで総合的にとらえる第 2 期ミレニアム評価を推進し、科学的知見と予防原則のもと、自然の利用のあり方を見直し、生物多様性の保全・復元を加速させる必要がある。また気候変動対策にとって生物多様性の保全、とりわけ、森林破壊を食い止めることが不可欠であることを認識すべきである。また海洋生態系の保全のために、公海におけるガバナンスを強化することも重要である。

G8 各国は、過剰な自然資源の消費などによる生物多様性の消失に関する責任を認識し、生物多様性の保全・復元に向けて、リーダーシップをとること。また貧困削減のためにも、生物多様性の保全に向けてのコミットメントを十分に満たすこと。

(3R イニシアティブ)

一般的に先進国は、製品のライフサイクルのうち、“製造”と“使用”の段階では利益と便益を享受しながら、“廃棄”の段階では汚染と危険という負の側面を途上国に押し付けていると、途上

国の人々は不信の念を持っている。

この途上国の人々の懸念と不信を払拭するためには、G8各国は、廃棄物は輸出しないと口先で約束するだけでなく、自国内で発生した廃棄物は途上国に肩代わりさせず、自国で処理するという“国内処理原則”を実現しつつ、資源の国際循環を可能とする新たな3Rイニシアティブを構築すること。

2008年5月23日

G8環境大臣会合関連イベント：「NGO・NPO国際シンポジウム・交流の広場」実行委員会

構成団体：2008年G8サミットNGOフォーラム環境ユニット、(特)環境エネルギー政策研究所、(特)気候ネットワーク、(特)地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)、(財)ひょうご環境創造協会



主 催 等 「NGO・NPO国際シンポジウム・交流の広場」実行委員会

(構成団体：2008年G8サミットNGOフォーラム環境ユニット、(特)気候ネットワーク、
(特)地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)、(特)環境エネルギー政策研究所、
(財)ひょうご環境創造協会)